

ヒト血清成分が卵巣内卵胞の形成および発育に与える影響に関する研究

1. 研究の対象

2021 年 8 月から 2029 年 2 月までに、大阪大学医学部附属病院産婦人科を受診された方のうち、包括的同意書（研究課題番号：19197-4 課題名：産婦人科生殖医療センターの患者の診療情報・生体試料の保存）に基づき、研究利用を目的として保管されている血液検体および診療情報の利用について同意を取得している方を対象とします。

2. 研究目的・方法

卵巣機能は女性の生殖能力を規定する重要な要因であり、血清中には卵胞発育に影響を与える様々な因子が存在すると考えられています。本研究では、包括的同意書に基づき研究利用を目的として採取・保存された血液から得られた血清を用いて、卵胞発育に及ぼす影響を解析することを目的としています。これにより、卵巣予備能低下のメカニズムの理解や、将来的な早期診断や予防につながる知見を得ることを目指します。

本研究では、同意に基づき保管された血液から得られた血清を使用します。血液検査で測定された抗ミュラー管ホルモン（AMH）値を参考に血清を分類し、マウス胎児卵巣の培養系へ添加して卵胞発育への影響を評価します。さらに、血清のたんぱく質解析を行い、卵胞発育に影響を及ぼす因子を同定することを目指します。

研究に使用する血清および診療情報は匿名化された状態で研究者に提供されるため、研究者が個人を特定することはできません。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2029 年 3 月 31 日

利用又は提供を開始する予定日：研究機関の長の実施許可日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では以下の試料および情報を利用します。

試料：血液

情報：基本情報（年齢、身長、体重、月経周期、妊娠・分娩歴等）、病歴、家族歴、生活歴（喫煙歴等）、治療歴（実際に採卵を行なった場合は、採卵時の所見等）

4. 外部への試料・情報の提供

外部への試料・情報の提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

対応表は、当機関研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

この研究は大阪大学医学系研究科 ゲノム生物学講座 生殖遺伝学教室が主体となり実施します。

研究代表機関：

大阪大学大学院医学系研究科 ゲノム生物学講座 生殖遺伝学教室 林 克彦

また、共同研究機関およびその研究責任者として以下がこの研究に参加します。

共同機関：

大阪大学大学院 ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 研究責任者 林 克彦

血清たんぱく質の測定は以下の会社に委託して実施します。

Somalogic 社

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学大学院 ヒューマン・メタバース疾患研究拠点

相談窓口：庄野真由美

〒565-0871 吹田市山田丘 2-2

連絡先：（電話）06-6879-3906 （FAX）06-6879-3909

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科 ゲノム生物学講座 生殖遺伝学教室 林 克彦

共同研究機関研究責任者：

大阪大学大学院 ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 林 克彦